

串本町教育委員会 様

串本町立小中学校の統合再編について（答申）

令和4年9月30日に諮問された串本町立小中学校の統合再編について、当審議会において慎重に審議を進めてきた結果、別紙のとおり答申いたします。

令和5年3月27日

串本町教育環境整備審議会
会 長 山 本 誠 士

答 申 書

諮問事項

串本町立小中学校の統合再編について

諮問についての答申

「串本町立小中学校の統合再編について」

児童生徒数の減少が進む自治体では、学校の統廃合の検討、実施が進められています。

統廃合の検討に際しては、立場や価値観の違いから見解が分かれます。

一つは、小規模校や少人数学級（複式学級を含む）によるきめ細やかな教育への期待や、学校が果たしてきた地域とのつながりから存続を願う意見であり、もう一つは、統合により大きくなった集団の中で、児童生徒の社会性や人間性の向上が期待できるという意見です。

二分する意見の中ではありますが、児童生徒数の減少が顕著な串本町でも、子どもたちが多様化する学習内容に対応し、格差のない教育を受けられる学校が必要になります。

また、教員も教育力の適正な水準を維持するためスキルアップをすることが求められ、より多くの同僚とのコミュニケーションや上司・先輩から経験に基づくアドバイスを受けながら成長することが重要であります。このように、新しい時代の教育環境の整備・未来思考な取り組みに対応した学校運営が必要となることから、次のとおり統合再編を進めていくことが望ましい。

（１）小学校の統合再編について

学校と地域の連携、地域住民同士のつながり、子どもたちと地域のつながりを長年にわたり大切にしてきましたが、今後の児童数の推移状況を鑑みれば、将来的に旧串本町エリアにおいては２校、旧古座町エリアにおいては１校とすることが望ましい。

（２）中学校の統合再編について

小学校から中学校への移行期は、環境の変化と思春期の到来が重なる時期でもあり、子どもにとって一つの大きな成長期です。

子どもたちは、中学校生活という新しい環境にストレスを感じながらも、

今までにない部活動や新しい友人との出会い、初めての授業など、楽しみも多くなります。

変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力（知）・豊かな心（徳）・健やかな体（体）をバランスよく育てることに加え、多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することが必要になります。

これらの理由や将来の生徒数の推移状況から、串本町全体で1校とすることが望ましい。

「統合再編を進めるにあたって」

当審議会の答申は、中期的・長期的な考えに則ったものであり、早期の統合再編を求めるものではありません。

統合再編の具体的な検討にあたっては、児童生徒、保護者の意見を尊重し、地域の合意形成に努めることが重要です。また、通学については高速道路の延伸による交通インフラの整備状況やスクールバスの活用による児童生徒の身体的な負担が軽減される施策を講ずることが必要になります。

中学校の統合再編においては、小学校からの集団がそのまま持ち上がる体制よりも子どもたちの成長期における新たな出会いや気づきによる、更なる社会性・人間性の向上を目指すことに重点を置くべきです。

また、古座川町立古座中学校に通学している生徒も多数いることから、古座川町教育委員会とも十分な協議を行う必要があります。

学校の統合再編は、児童生徒の教育環境を整備・維持していくうえで重要な効果をもたらすものであります。これまで長年にわたり学校が果たしてきた児童生徒・保護者・地域住民との連携を生かした新たな地域づくりを目指した支援を行うことが、多くの方の理解を得ることにつながります。統合再編後も学校と地域が連携・協働し交流を図り、学校施設がともに創造する共創空間となることを期待します。